

十月十三日

太政大臣

内史幸課補

右大臣兼參議

寺島宗則

愛芳

陸軍之補西郷從道建白後像之議供
高覽也

臣從道謹言汚穢鬱蒸ノ氣人ノ身體ヲ害スルノ
甚シキ固ヨリ論ヲ待タス 朝廷已ニ有司ニ令
シ市街ノ塵埃ヲ掃除シ閭巷ノ溝渠ヲ疏通シ汚
穢ヲ一洗セラル蒼生保護ノ方至レリト云フベ
シ獨リ怪シム 皇城外ノ濠水枯涸日久シク百
艸繁茂汚穢堆積衆庶傍觀猶頌ヲ盛ム而シテ有
司知ラサル者ノ如ク為ニ修理ヲ加フルヲ無シ
夫 皇居ハ四海ノ表ナリ宮隍ハ衆溝ノ源ナリ
今荒濠ヲ以テ皇居ヲ環ラシテ民居ノ不潔ヲ咎

メ汚穢ヲ以テ宮隍ヲ埋メテ閭巷ノ溝渠清潔ニ
歸センコトヲ欲ス是猶其表ヲ曲ケテ影ノ直キヲ
求メ其源ヲ濁シテ流レノ清キヲ求ムルカ如シ
先後スル所ヲ知ルト謂フ可ケンヤ抑 皇居ノ
閭巷ト其輕重大小三尺ノ童子モ皆之ヲ知ル而
シテ今手ヲ下ス顛倒カクノ如キ者必故アラ
ン蓋シ 聖慮至仁諸民ノ患害ヲ除クニ急ニシテ
未タ城隍ヲ修ムルニ暇アラサルカ竊カニ惟
ニ兵隊ハ以テ天下ヲ保護スル所ナリ而シテ兵
營ノ設ケ多ク城隍ニ臨ミ營内士卒填咽ス宜ク

通スルニ清新ノ氣ヲ以テスヘシ苟クモ汚穢
蒸ノ氣之ヲ犯セハ釀シテ百種ノ毒トナリ發シ
テ萬變ノ病トナル今其害ヲ蒙ムルコト已ニ少ナ
カラス是誠ニ臣等ノ忍ヒサル所ナリ今 朝廷
蒼生ヲ保護セララル、盛意ニ體シ兵隊ヲ保護
スル所ノ方法ヲ盡サントスルニ城隍ノ汚穢ヲ
一掃スル實ニ急務タリ願クハ閣下斷然令ヲ下
シ速カニ浚隍ノ業ヲ成シ上下一般汙穢蔚蒸ノ
氣ニ觸ル、ノ患ヲ除カンコトヲ臣從道誠惶誠懼
謹言

明治六年十月十二日 陸軍大輔西郷從道

太政大臣三條實美殿

一皇城周圍濠浚

七月廿七日外史ヨリ受

八月十日庶務課立案財務課回議

日十三日入費仕設書差出の様大花省、
推尚

九月五日右催促申遣

日十三日再交催促

日十八日右回答仕譯書来ル

日十九日財務課一再回

日廿二日同課ヨリ返ハ即日上申

十月二日決裁外吏ニ送付

右之通牒事

庶務課

東京府一指令案

書面御濠浚方之義ハ濠中取々埋居ハ木石
蘆芥之類取除ハ迄ニテ淤泥浚鑿ニ不及ハ旨
目論見替高ハ伺出ハ且外櫻田外四ヶ交一埋掘設
置之義ハ寸届ハ案入費積高金三ヶ換土田余
シ目的トシ築造可取計事

但皇城西御庭先石垣壞崩之場交ハ

土木寮ニテ修繕致ル

卷一百一十五

卷一百一十五

一月十九日

多政大臣

参儀

内史卒課

從書

平島

朱

民權院ノ儀ヲ副島種臣外七名
引別當ノ通達言奉成爲
左院ヲ上陳奉成爲
宣讀也